

E 高齡者

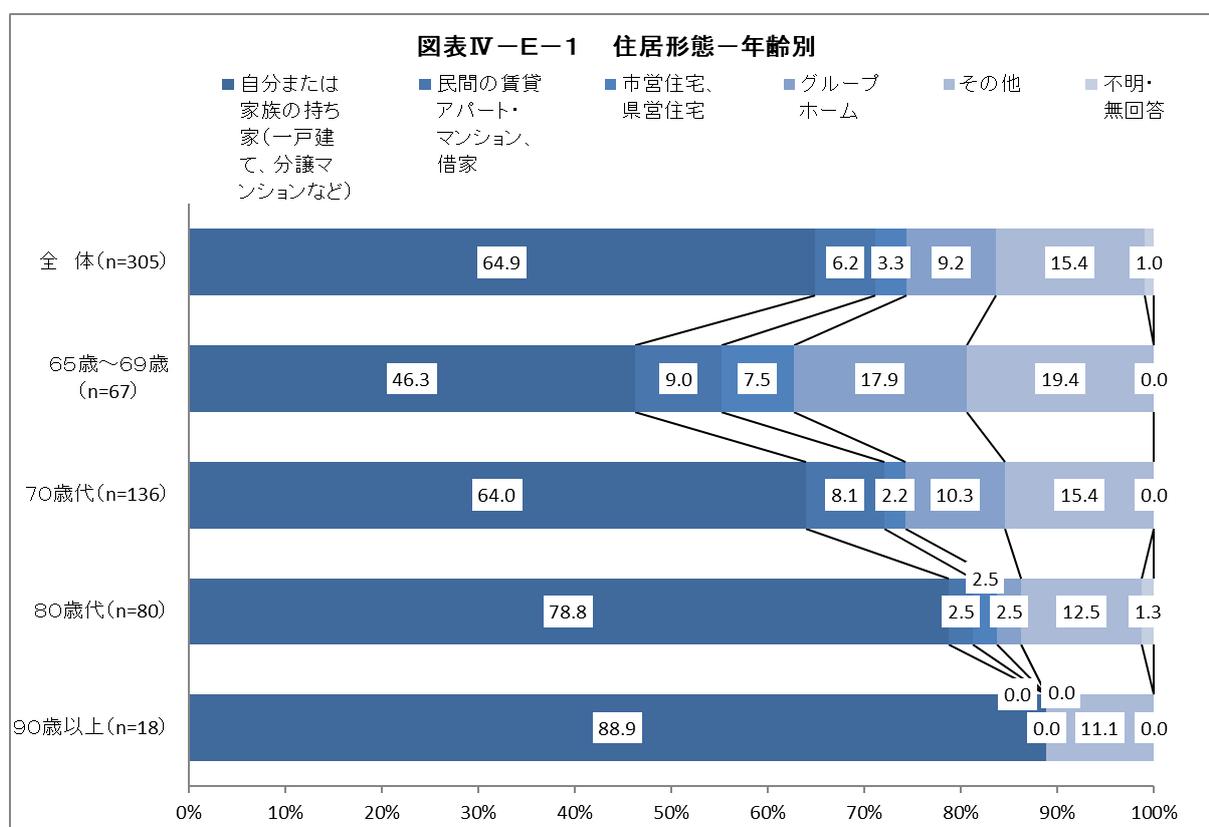
1 生活の場について

(1) 住居形態（問4）

現在、どこで暮らしているかをたずねた。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、64.9%、「その他」は、15.4%、「グループホーム」は、9.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、90歳以上が88.9%、次に80歳代が78.8%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「グループホーム」は、65歳～69歳が17.9%、次に70歳代が10.3%である。

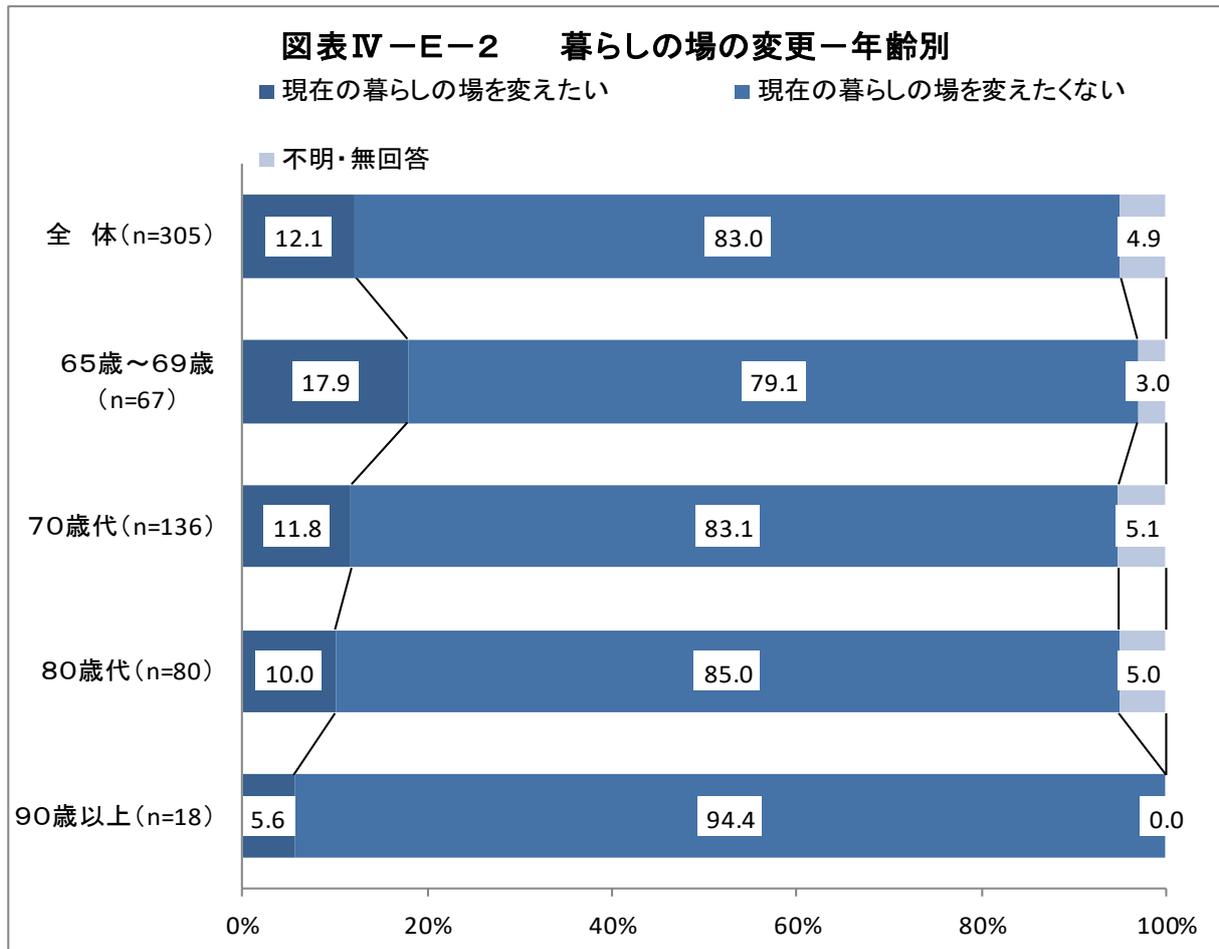


(2) 暮らしの場の変更 (問5)

現在の暮らしの場を変えたいかをたずねた。

「現在の暮らしの場を変えたくない」は、83.0%、「現在の暮らしの場を変えたい」は、12.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の暮らしの場を変えたくない」は、90歳以上が94.4%、次に80歳代が85.0%である。年齢が上がるごとに割合が高い。一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、65歳～69歳が17.9%、次に70歳代が11.8%である。

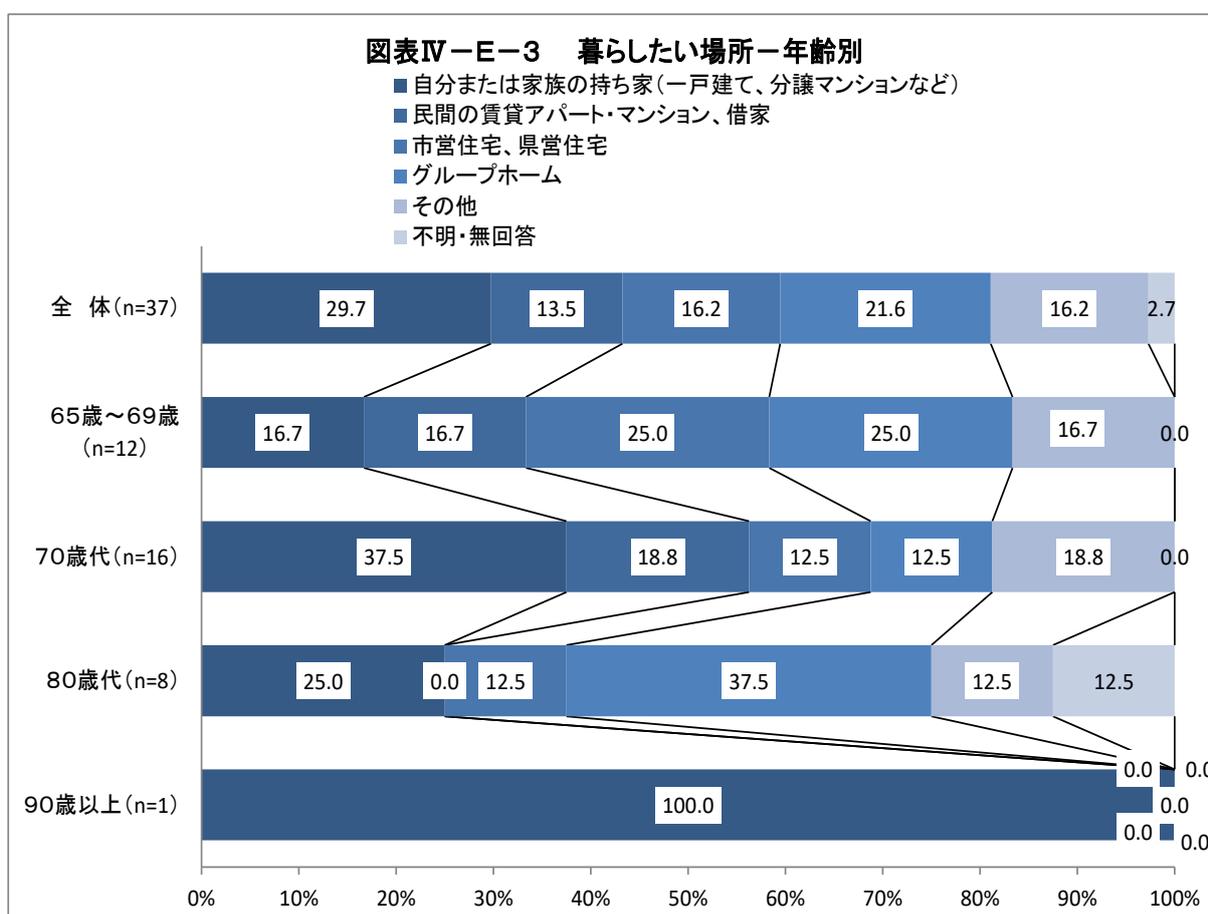


(3) 暮らしたい場所（問6）

問5で「現在の暮らしの場を変えたい」と回答した人に、今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

「自分または家族の持ち家」は、29.7%、「グループホーム」は、21.6%、「市営住宅・県営住宅」と「その他」は、16.2%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、13.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家」は、90歳以上が100.0%、次に70歳代が37.5%である。「グループホーム」は、80歳代が37.5%、次に65歳～69歳が25.0%である。「市営住宅・県営住宅」は、65歳～69歳が25.0%である。「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、70歳代が18.8%である。

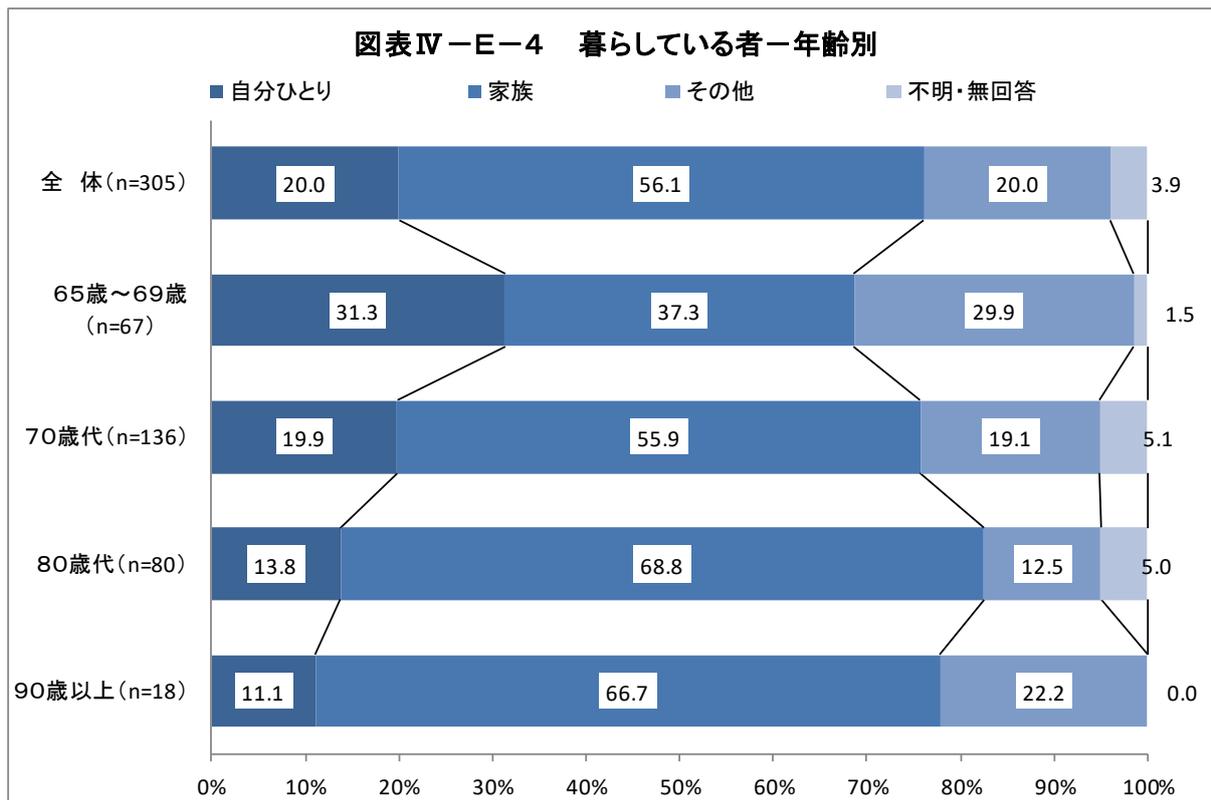


(4) 世帯構成 (問7)

現在、だれと暮らしているかをたずねた。

「家族」は、56.1%、「自分ひとり」は、20.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「家族」は、80歳代が68.8%、次に90歳以上が66.7%である。一方「自分ひとり」は、65歳～69歳が31.3%、次に70歳代が19.9%である。年齢が下がるごとに割合が高い。

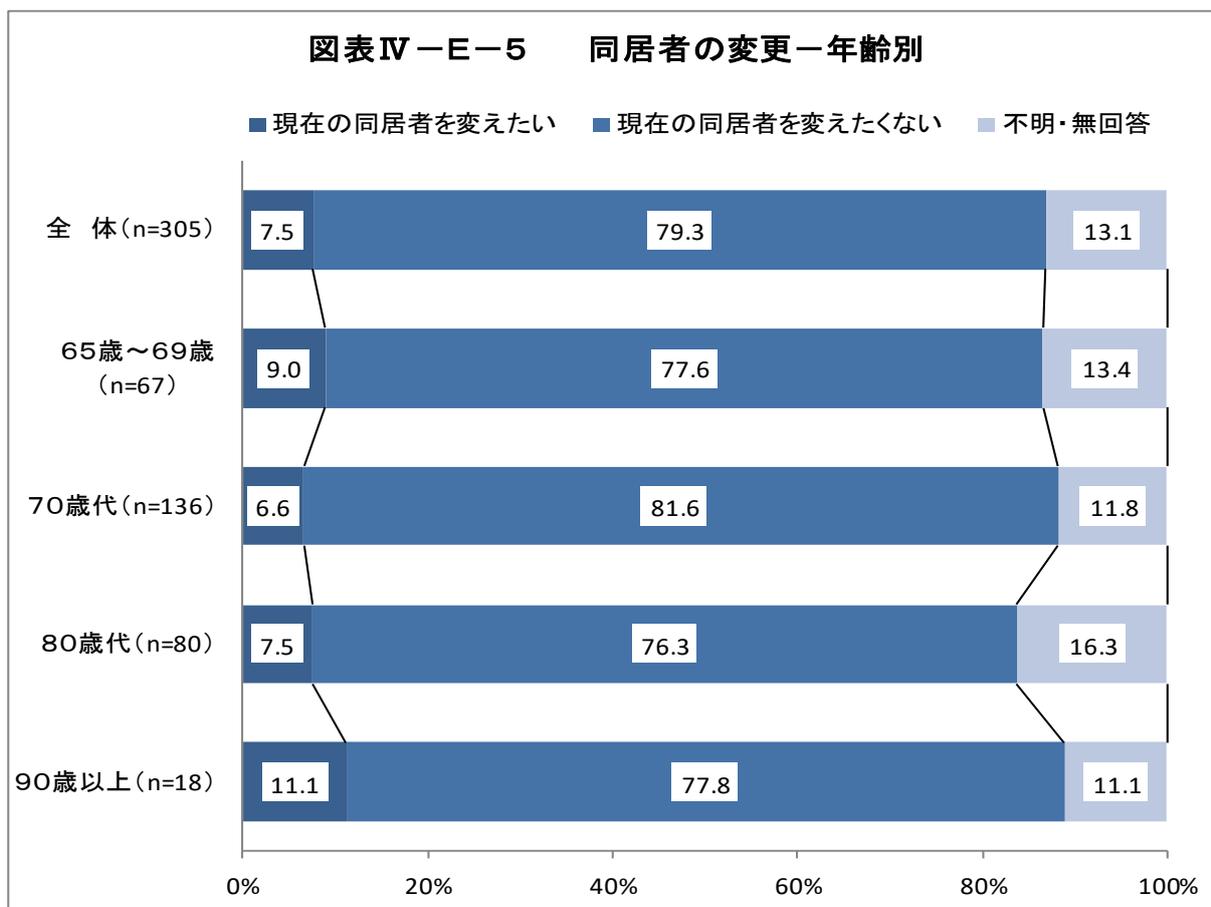


(5) 同居者の変更（問8）

現在の同居者を変えたいかをたずねた。

「現在の同居者を変えたくない」は、79.3%、「現在の同居者を変えたい」は、7.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の同居者を変えたくない」は、70歳代が81.6%、次に90歳以上が77.8%である。一方「現在の同居者を変えたい」は、90歳以上が11.1%、次に65歳～69歳が9.0%である。

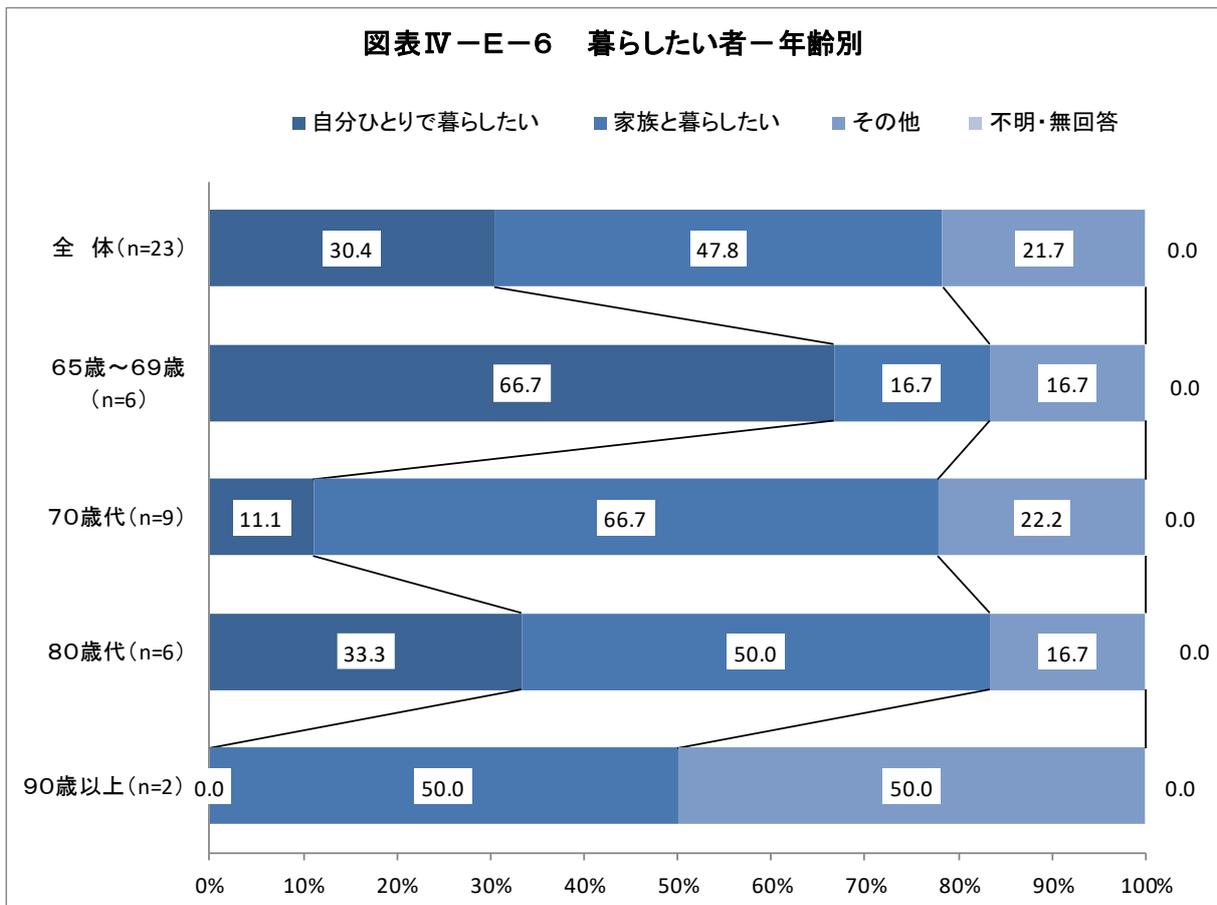


(6) 暮らしたい者 (問9)

問8で「現在の同居者を変えたい」と回答した人に、今後、だれと暮らしたいかをたずねた。

「家族と暮らしたい」は、47.8%、「自分ひとりで暮らしたい」は、30.4%、「その他」は、21.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「家族と暮らしたい」は、70歳代が66.7%、次に80歳代と90歳以上が50.0%である。一方「自分ひとりで暮らしたい」は、65歳～69歳が66.7%、次に80歳代が33.3%である。

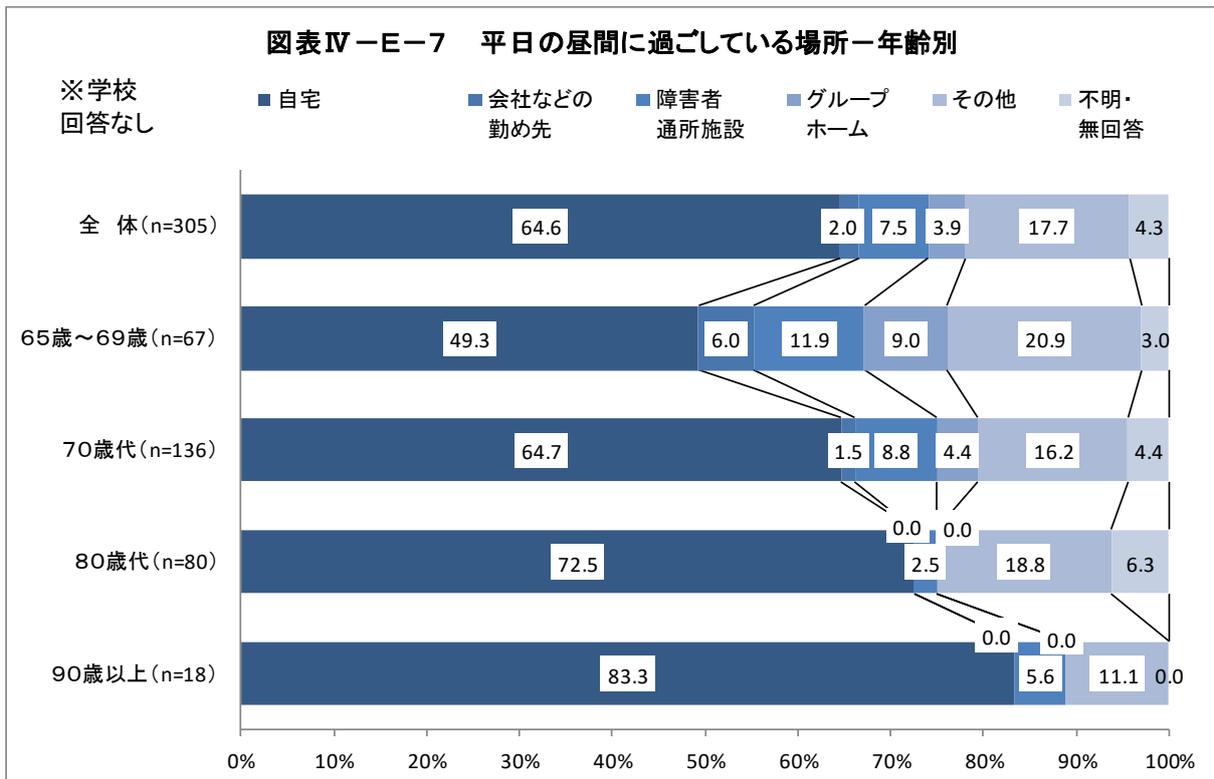


(7) 平日の昼間に過ごしている場所（問10）

現在、平日の昼間に主にどこで過ごしているかをたずねた。

「自宅」は、64.6%と最も高く、「障害者通所施設」は、7.5%、「グループホーム」は、3.9%である。

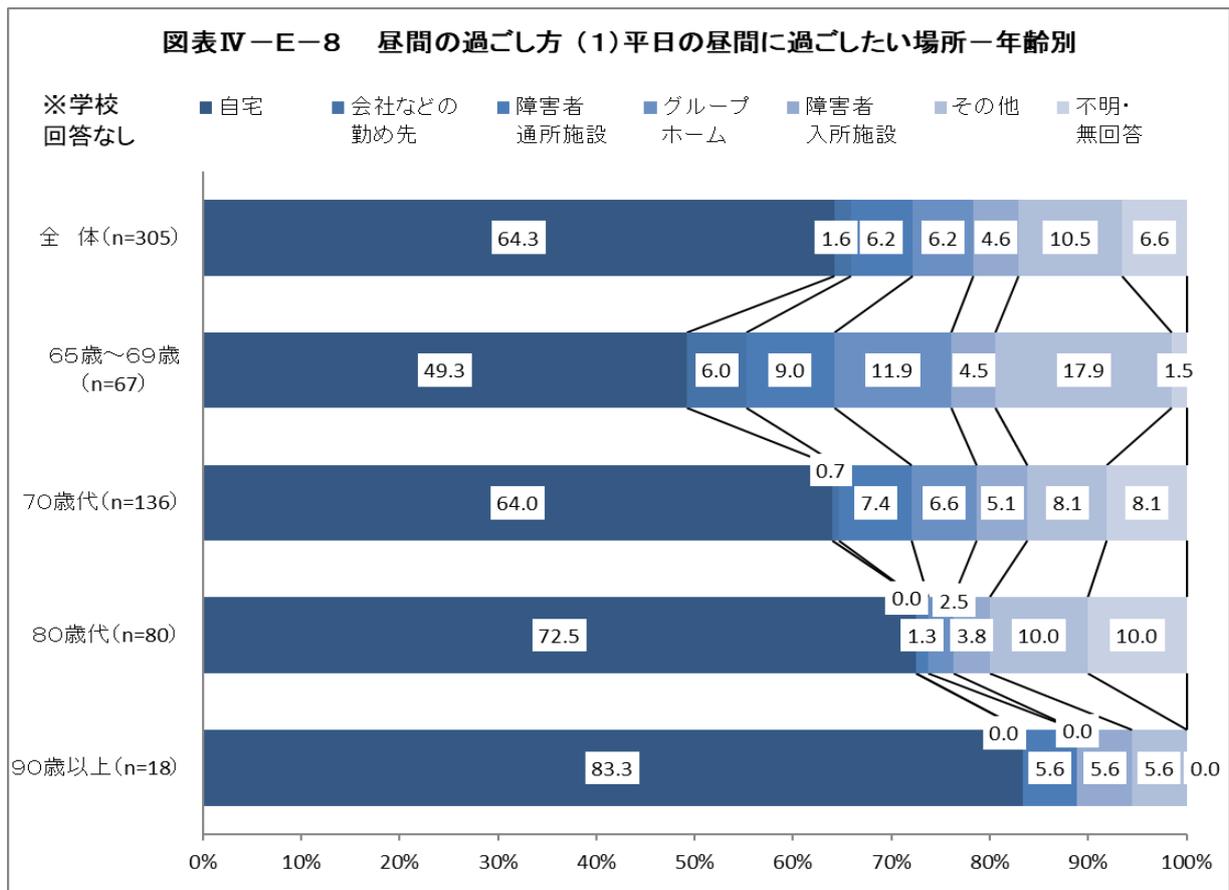
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自宅」は、90歳以上が83.3%、次に80歳代が72.5%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「障害者通所施設」は、65歳～69歳が11.9%、次に70歳代が8.8%である。「グループホーム」は、65歳～69歳が9.0%である。



(8) 昼間の過ごし方－(1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問 1 1 (1))

今後の昼間の過ごし方について、平日の昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。「自宅」は、64.3%、「障害者通所施設」と「グループホーム」は、6.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自宅」は、90歳以上が83.3%、次に80歳代が72.5%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「障害者通所施設」は、65歳～69歳が9.0%、次に70歳代が7.4%である。「グループホーム」は、65歳～69歳が11.9%である。



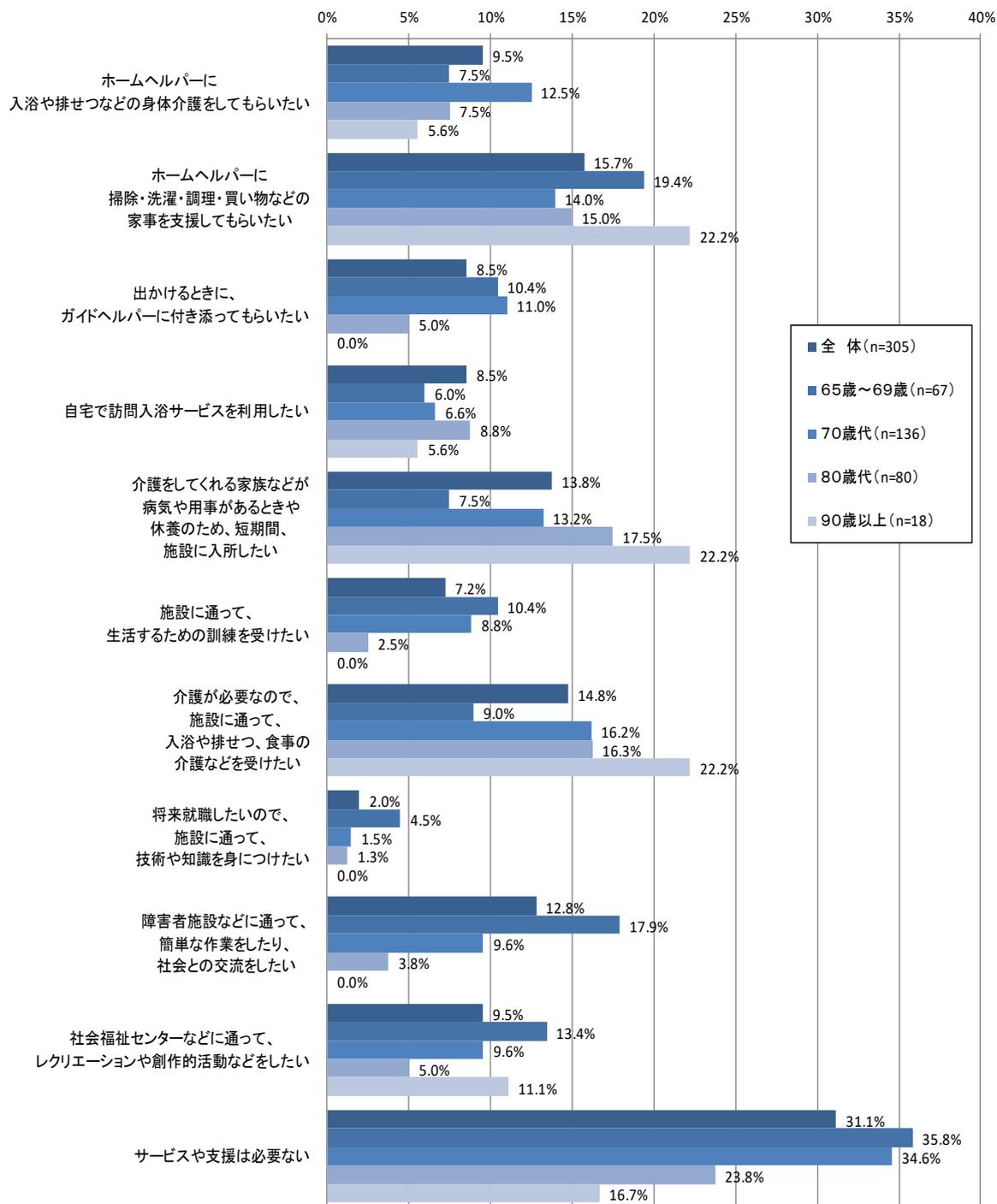
(8) 昼間の過ごし方-(2) 昼間に利用したいサービスや支援 (問 1 1 (2))

今後、昼間どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「サービスや支援は必要ない」は、31.1%、「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、15.7%、「介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい」は、14.8%、「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、13.8%、「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、12.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「サービスや支援は必要ない」は、65歳～69歳が35.8%、次に70歳代が34.6%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、90歳以上が22.2%、次に65歳～69歳が19.4%である。「介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい」は、90歳以上が22.2%、次に80歳代が16.3%である。「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、90歳以上が22.2%、次に80歳代が17.5%である。「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、65歳～69歳が17.9%である。

図表Ⅳ-E-9 昼間の過ごし方(2)昼間に利用したいサービスや支援一年齢別
(複数回答)



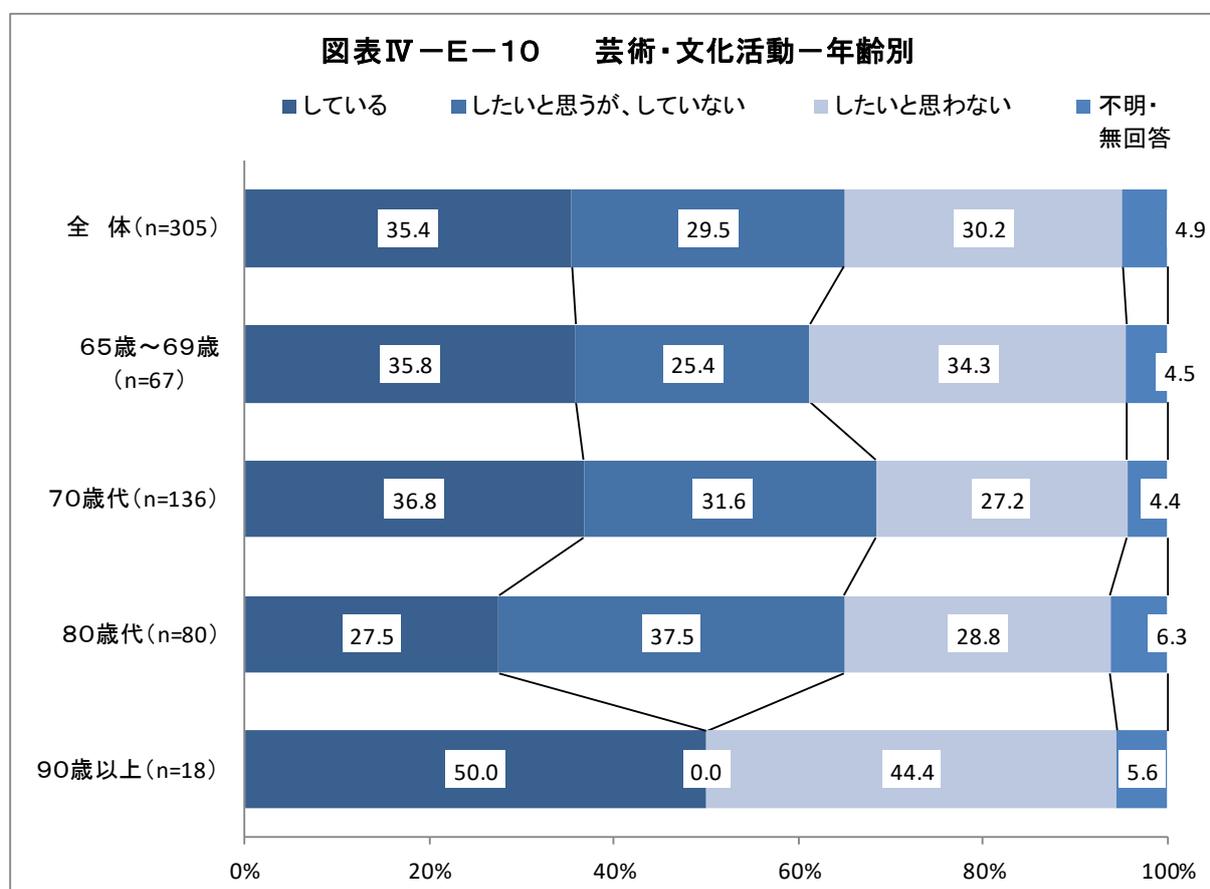
2 文化・スポーツについて

(1) 芸術・文化活動の状況（問12）

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

「している」は、35.4%、「したいと思うが、していない」は、29.5%、「したいと思わない」は、30.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、90歳以上が50.0%、次に70歳代が36.8%である。「したいと思うが、していない」は、80歳代が37.5%、次に70歳代が31.6%である。「したいと思わない」は、90歳以上が44.4%、次に65歳～69歳が34.3%である。

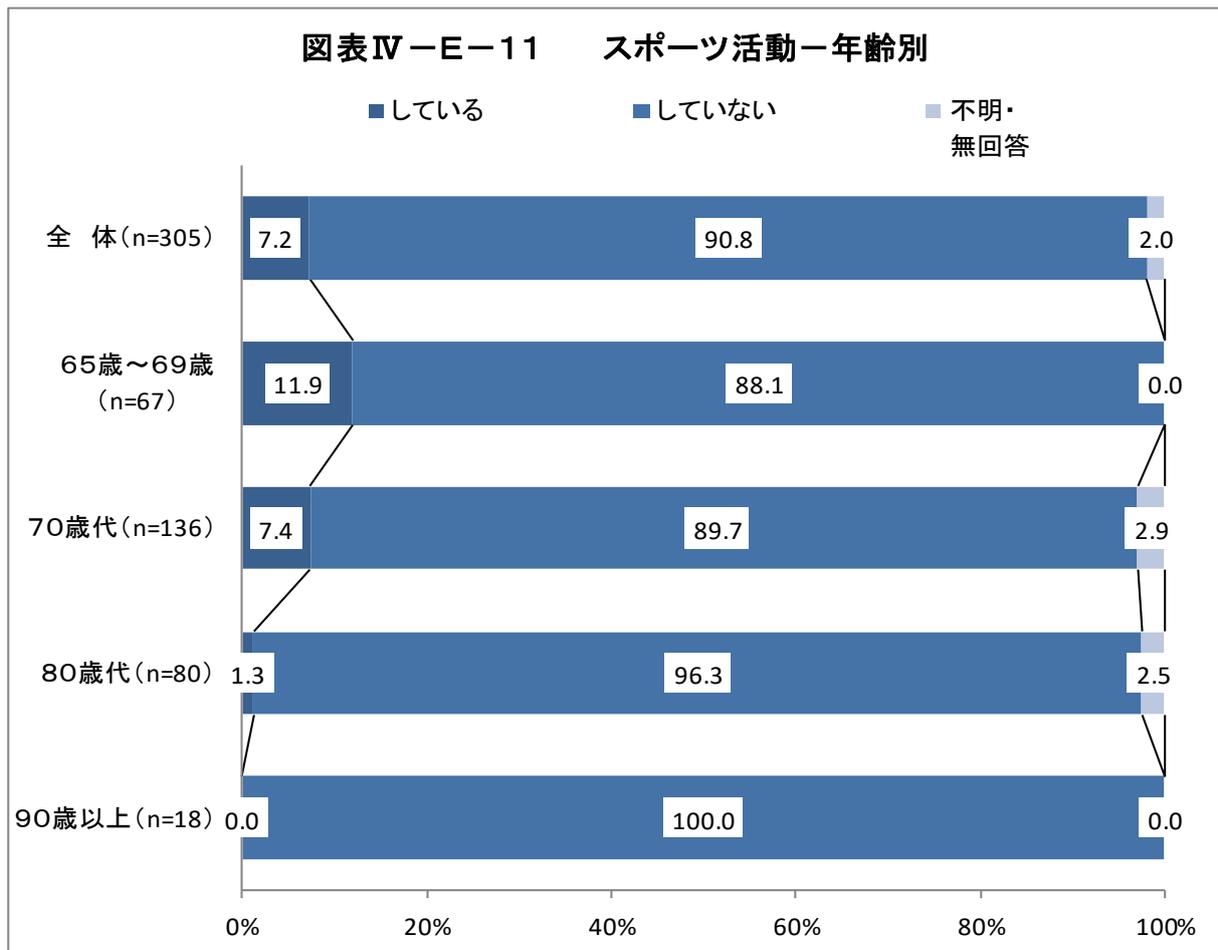


(2) スポーツ活動の実施（問13）

現在、スポーツをしているかをたずねた。

「している」は、7.2%、「していない」は、90.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、65歳～69歳が11.9%、次に70歳代が7.4%である。「していない」は、90歳以上が100.0%、次に80歳代が96.3%である。年齢が上がるごとに割合が高い。

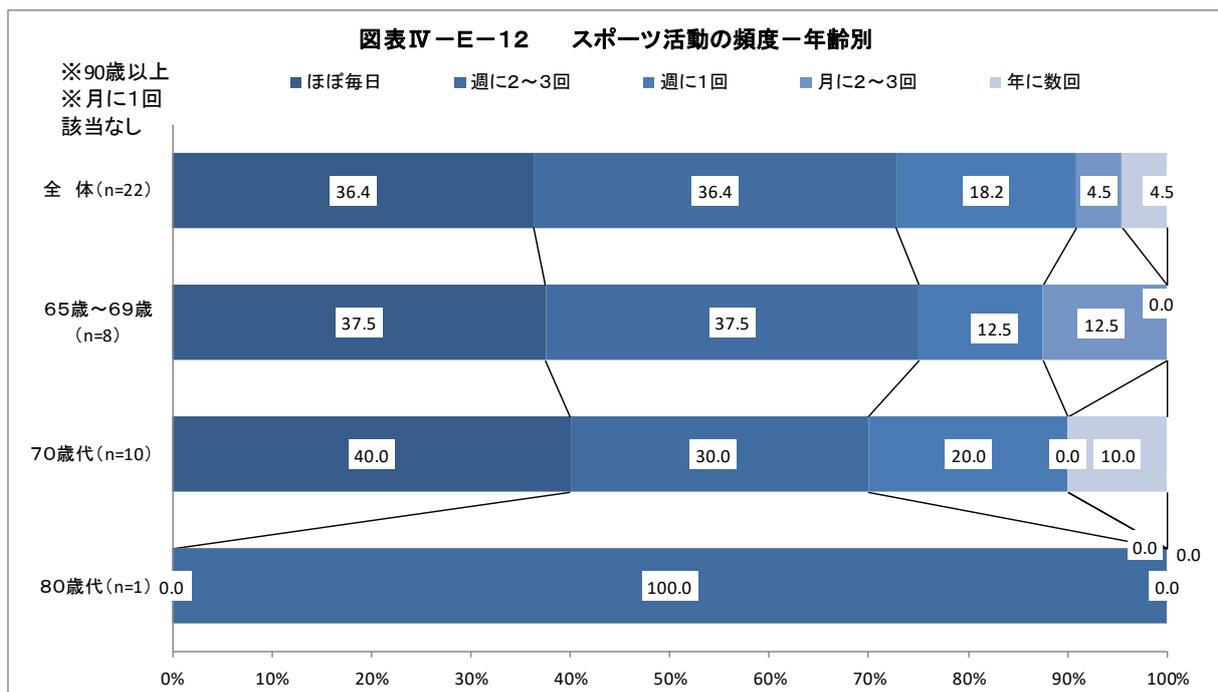


(3) スポーツ活動の頻度 (問14)

問13で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

「ほぼ毎日」と「週に2～3回」は、36.4%、「週に1回」は、18.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、70歳代が40.0%、次に65歳～69歳が37.5%である。「週に2～3回」は、80歳代が100.0%、次に65歳～69歳が37.5%である。「週に1回」は、70歳代が20.0%、次に65歳～69歳が12.5%である。

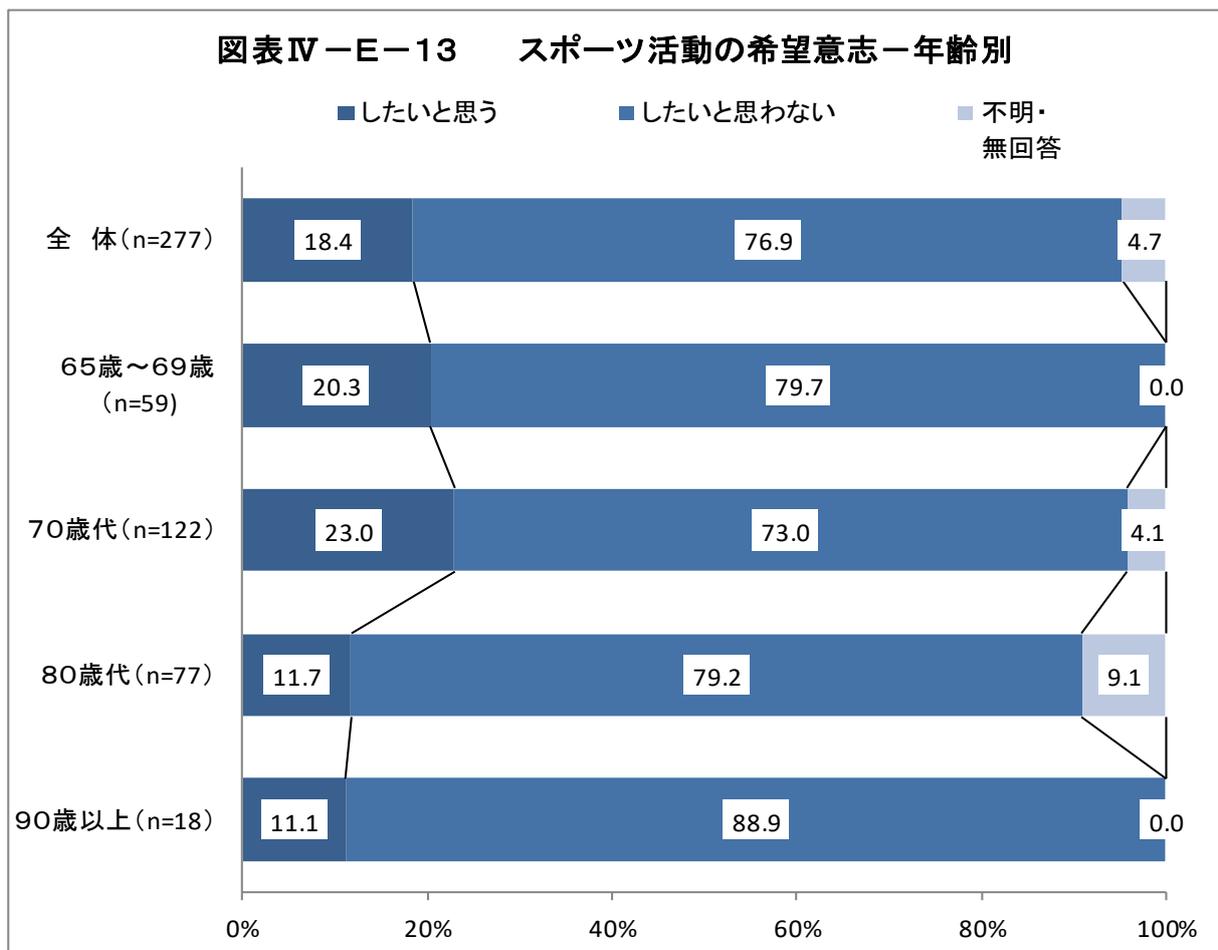


(4) スポーツ活動をしたい希望意志（問15）

問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

「したいと思う」は、18.4%、「したいと思わない」は、76.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、70歳代が23.0%、次に65歳～69歳が20.3%である。一方「したいと思わない」は、90歳以上が88.9%、次に65歳～69歳が79.7%である。



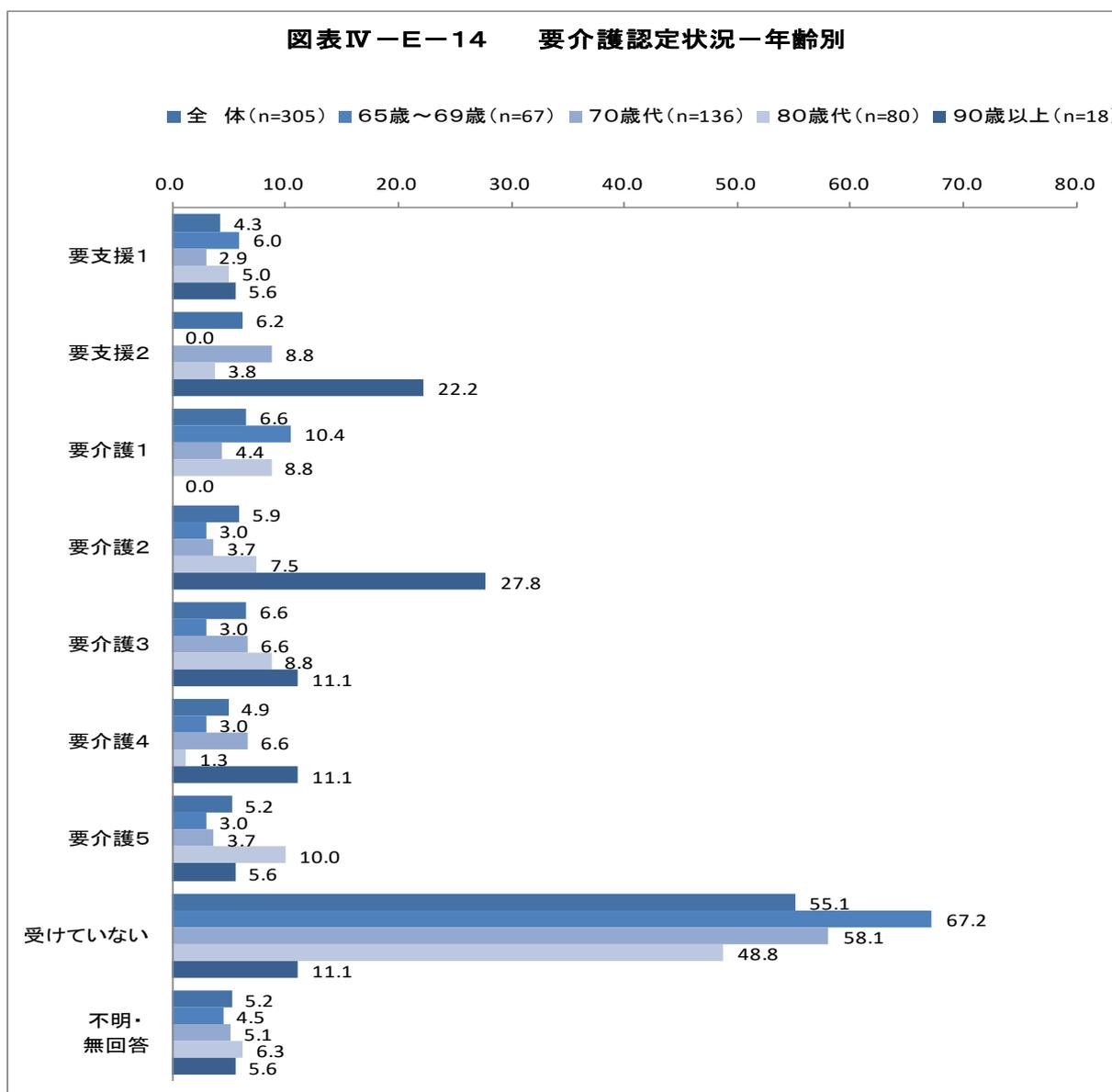
3 介護保険サービスの利用について

(1) 要介護認定の有無（問16）

介護保険の要介護認定を受けているかをたずねた。

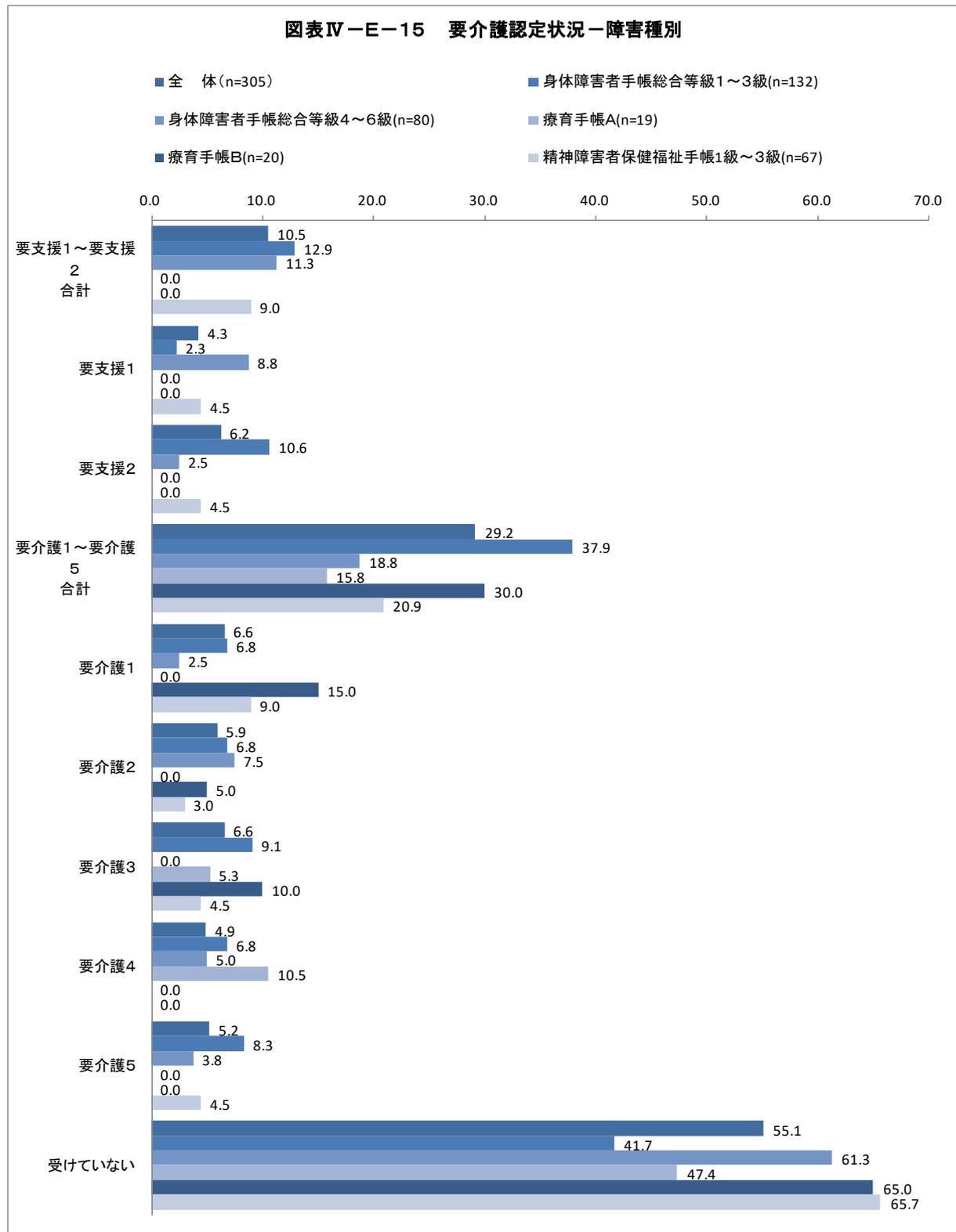
「受けていない」は、55.1%、要介護認定を受けている人の要介護度は、順に、「要介護1」と「要介護3」は、6.6%、「要支援2」は、6.2%、「要介護2」は、5.9%、「要介護5」は、5.2%、「要介護4」は、4.9%、「要支援1」は、4.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答をしてみると、「受けていない」は、65歳～69歳が67.2%、次に70歳代が58.1%である。「要支援2」は、90歳以上が22.2%、「要介護2」は、90歳以上が27.8%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「受けていない」は、精神障害者保健福祉手帳1級～3級が65.7%、次に療育手帳Bが、65.0%である。

「要支援1～要支援2合計」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が12.9%、次に身体障害者手帳総合等級4～6級が11.3%である。「要介護1～要介護5合計」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が37.9%、次に療育手帳Bが30.0%である。

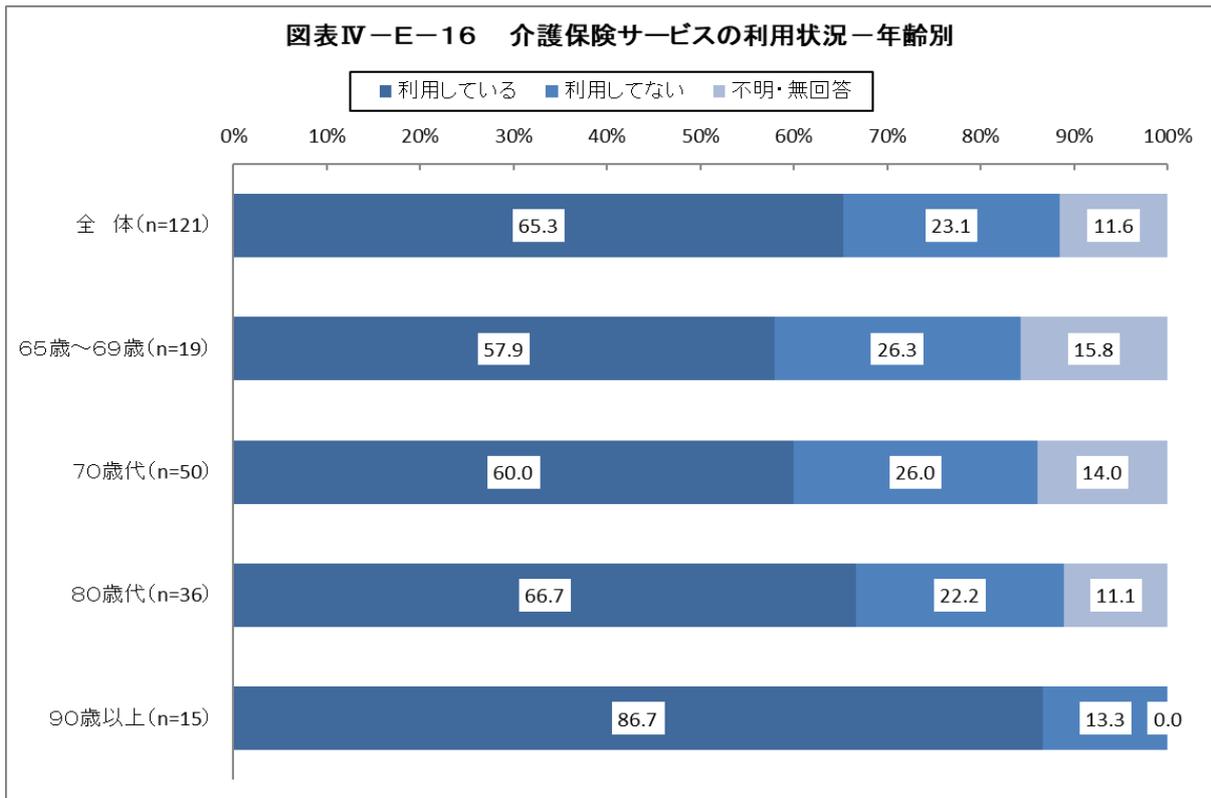


(2) 介護保険サービスの利用状況（問17）

問16で要介護認定を受けていると回答した人に、介護保険サービスを利用しているかをたずねた。

「利用している」は、65.3%、「利用していない」は、23.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用している」は、90歳以上が86.7%、次に80歳代が66.7%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「利用していない」は、65歳～69歳が26.3%、次に70歳代が26.0%である。



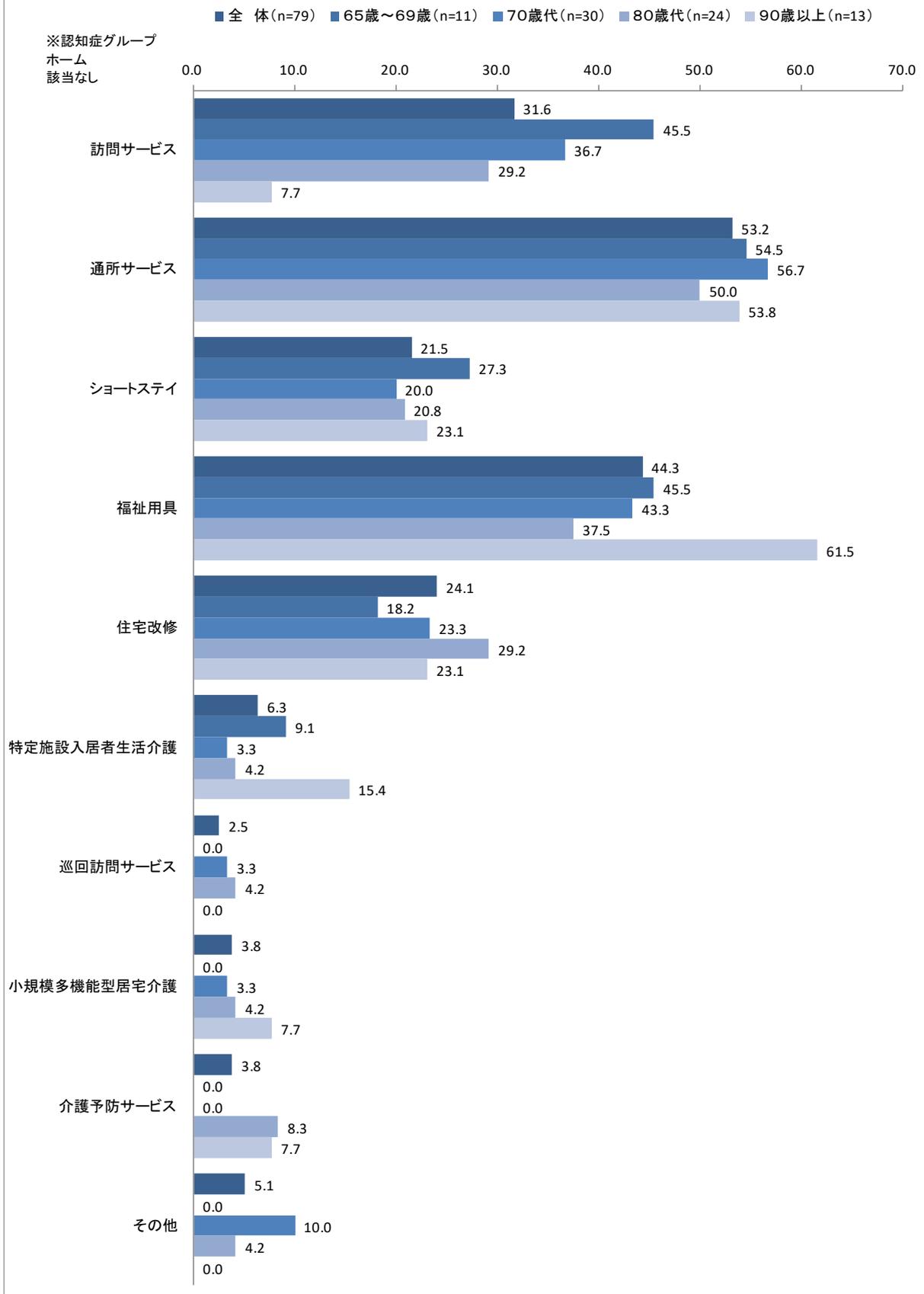
(3) 利用している介護保険サービス（問18）

問 17 で介護保険サービスを利用していると回答した人に、どのような介護保険のサービスを利用しているかを複数回答でたずねた。

「通所サービス」は、53.2%、「福祉用具」は、44.3%、「訪問サービス」は、31.6%、「住宅改修」は、24.1%、「ショートステイ」は、21.5%である。

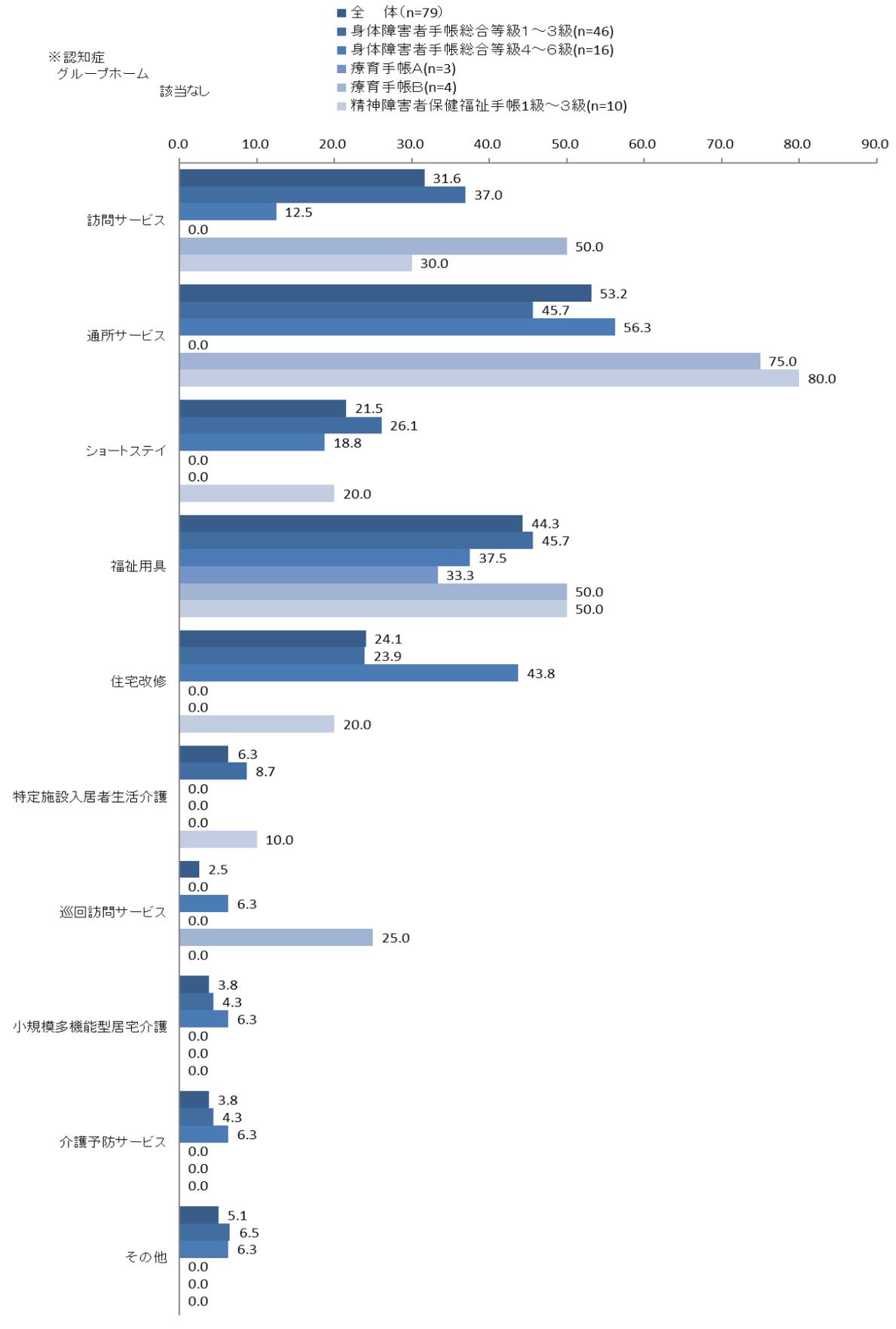
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通所サービス」は、70歳代が56.7%、次に65歳～69歳が54.5%である。「福祉用具」は、90歳以上が61.5%、次に65歳～69歳が45.5%である。「訪問サービス」は、65歳～69歳が45.5%、次に70歳代が36.7%である。「住宅改修」は、80歳代が29.2%、次に70歳代が23.3%である。「ショートステイ」は、65歳～69歳が27.3%、次に90歳以上が23.1%である。

図表IV-E-17 利用している介護保険サービス年齢別(複数回答)



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通所サービス」は、精神障害者保健福祉手帳1級～3級が80.0%、療育手帳Bが75.0%である。「福祉用具」は、精神障害者保健福祉手帳1級～3級と療育手帳Bが50.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が45.7%である。「訪問サービス」は、療育手帳Bが50.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が37.0%である。「住宅改修」は、身体障害者手帳総合等級4～6級が43.8%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が23.9%である。「ショートステイ」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が26.1%、次に精神障害者保健福祉手帳1級～3級が20.0%である。

図表Ⅳ-E-18 利用している介護保険サービス—障害種別(複数回答)



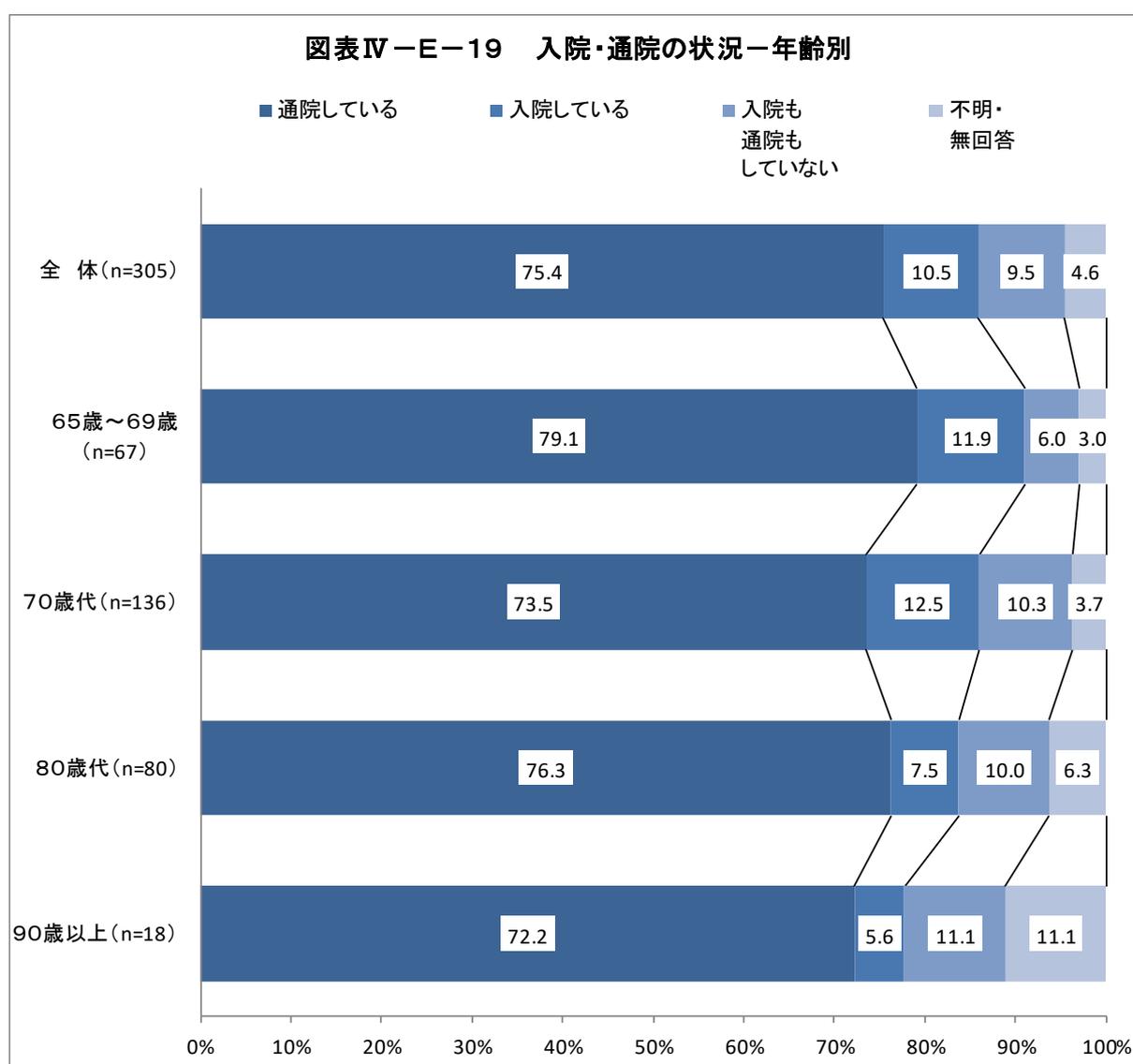
4 入院・通院について

(1) 入院・通院の状況（問19）

現在、入院や通院をしているかをたずねた。

「通院している」は、75.4%、「入院している」は、10.5%、「入院も通院もしていない」は、9.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通院している」は、65歳～69歳が79.1%、次に80歳代が76.3%である。「入院している」は、70歳代が12.5%、次に65歳～69歳が11.9%である。「入院も通院もしていない」は、90歳以上が11.1%、次に70歳代が10.3%である。

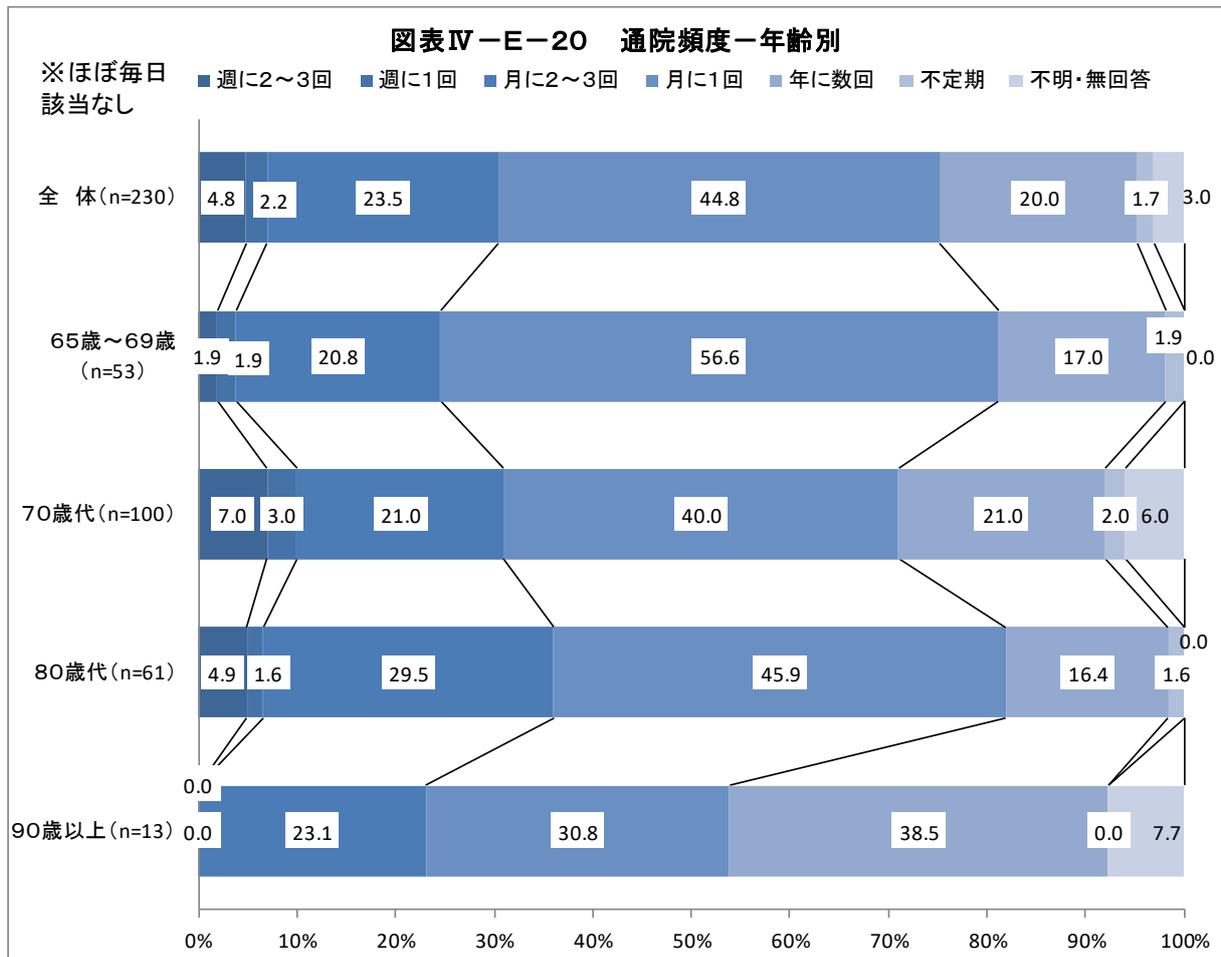


(2) 通院頻度 (問20)

問19で「通院している」と回答した人に、現在、どのくらい医療機関に通院しているかたずねた。

「月に1回」は、44.8%、「月に2～3回」は、23.5%、「年に数回」は、20.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「月に1回」は、65歳～69歳が56.6%、次に80歳代が45.9%である。「月に2～3回」は、80歳代が29.5%、次に90歳以上が23.1%である。「年に数回」は、90歳以上が38.5%、次に70歳代が21.0%である。



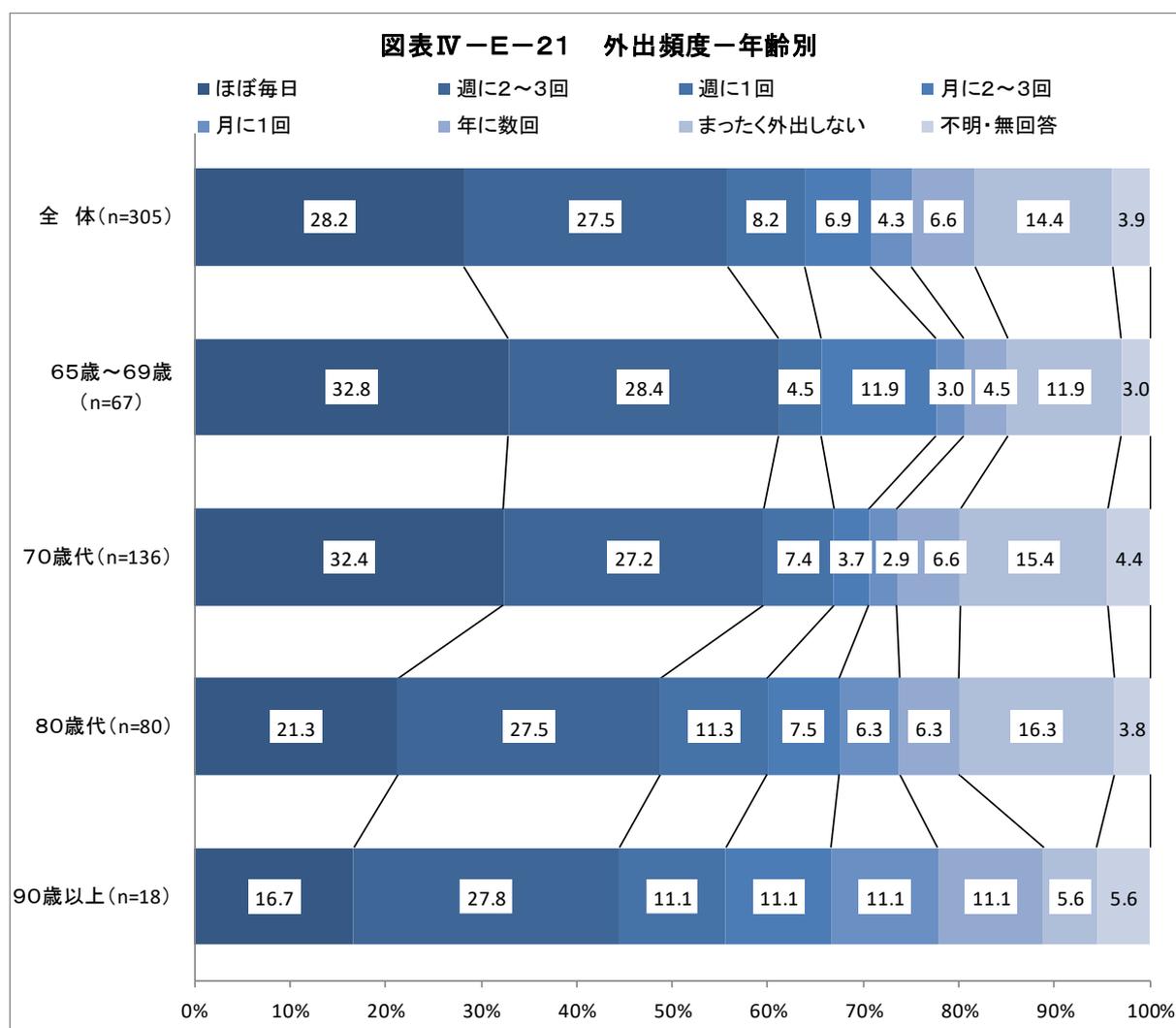
5 外出について

(1) 外出頻度 (問21)

現在、どのくらい外出(暮らしている場所から外に出ること)しているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、28.2%、「週に2～3回」は、27.5%、「まったく外出しない」は、14.4%、「週に1回」は、8.2%、「月に2～3回」は、6.9%、「年に数回」は、6.6%、「月に1回」は、4.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、65歳～69歳が32.8%、次に70歳代が32.4%である。「週に2～3回」は、65歳～69歳が28.4%、次に90歳以上が27.8%である。「週に1回」は、80歳代が11.3%、次に90歳以上が11.1%である。一方、「まったく外出しない」は、80歳代が16.3%、次に70歳代が15.4%である。

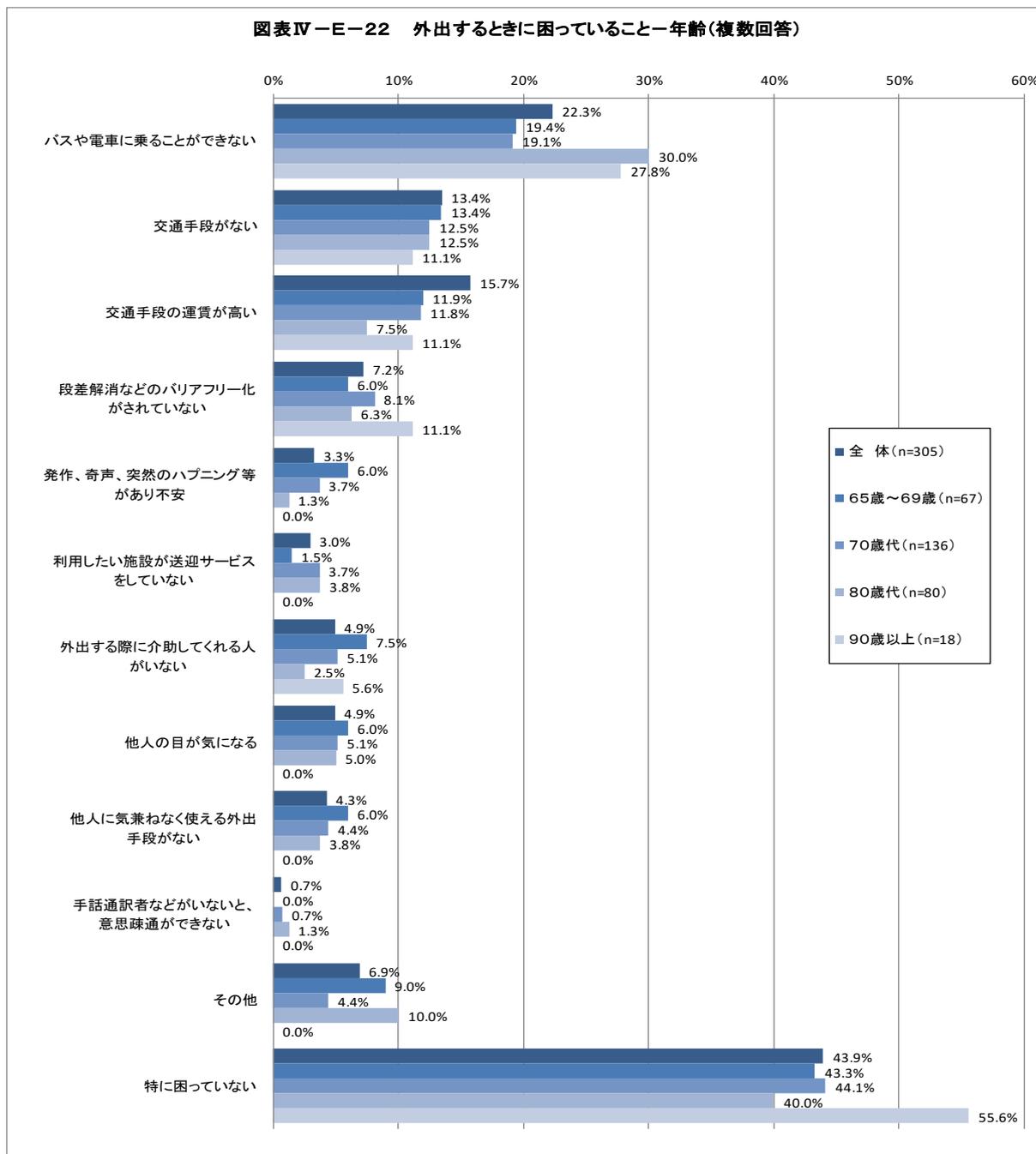


(2) 外出時に困っていること (問22)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

「特に困っていない」は、43.9%、「バスや電車に乗ることができない」は、22.3%、「交通手段の運賃が高い」は、15.7%、「交通手段がない」は、13.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、90歳以上が55.6%、次に70歳代が44.1%である。「バスや電車に乗ることができない」は、80歳代が30.0%、次に90歳以上が27.8%である。「交通手段の運賃が高い」は、65歳～69歳が11.9%、次に70歳代が11.8%である。「交通手段がない」は、65歳～69歳が13.4%、次に90歳以上が12.5%である。

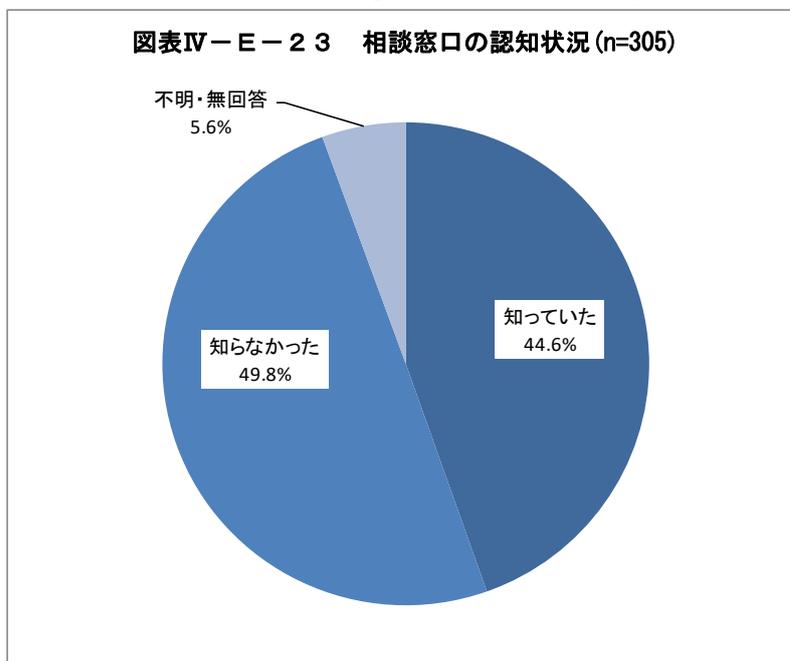


6 相談窓口について

(1) 相談窓口の認知状況 (問 2 3)

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

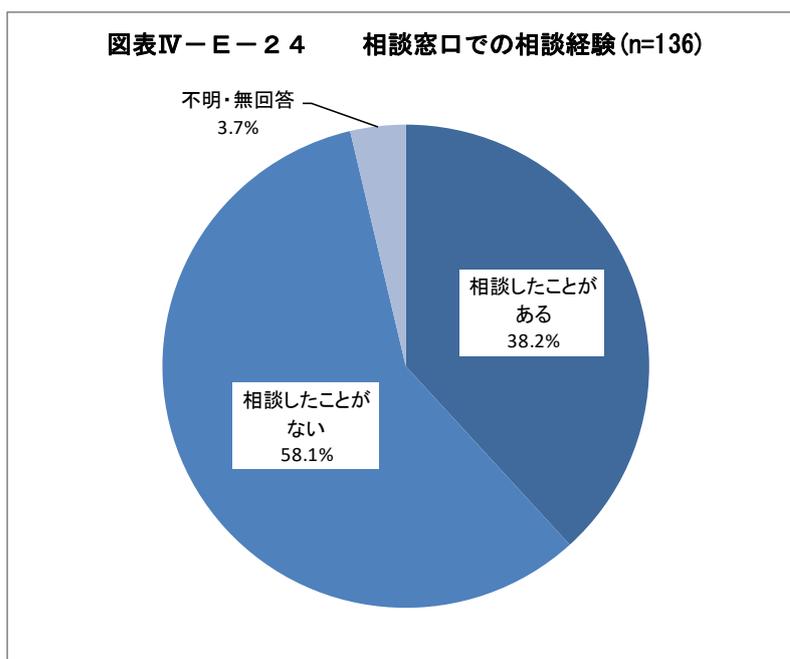
「知っていた」は、44.6%、「知らなかった」は、49.8%である。



(2) 相談窓口での相談経験 (問 2 4)

問 23 で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

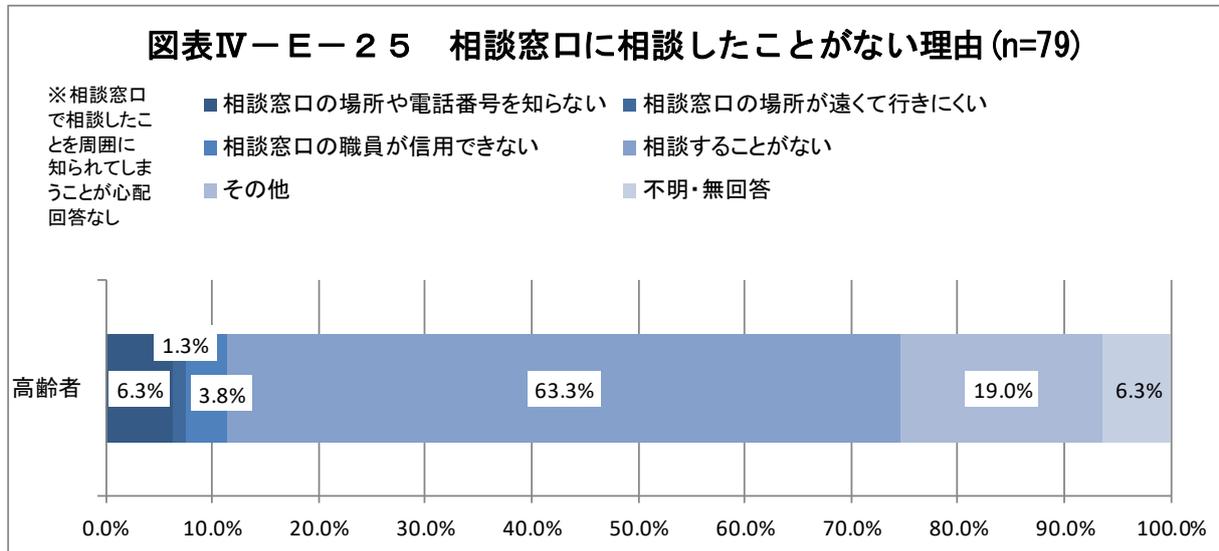
「相談したことがある」は、38.2%、「相談したことがない」は、58.1%である。



(3) 相談窓口に相談したことがない理由（問25）

問24で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、63.3%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、6.3%、「相談窓口の職員が信用できない」は、3.8%である。



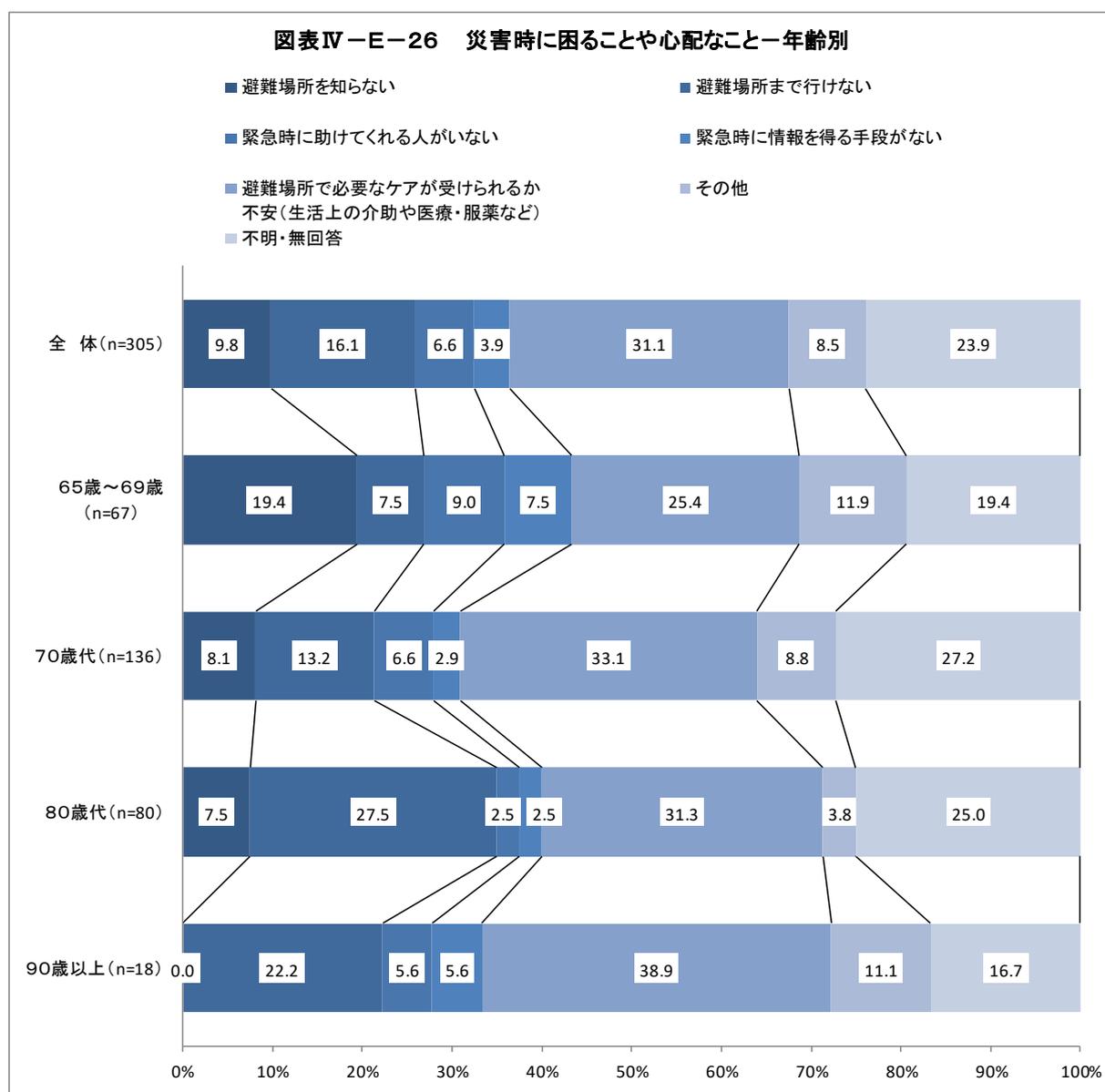
7 災害時について

(1) 災害時に困ることや心配なこと（問26）

災害が発生したときに、困ることや心配なことは何かをたずねた。

「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、31.1%、「避難場所まで行けない」は、16.1%、「避難場所を知らない」は、9.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、90歳以上が38.9%、次に70歳代が33.1%である。「避難場所まで行けない」は、80歳代が27.5%、次に90歳以上が22.2%である。「避難場所を知らない」は、65歳～69歳が19.4%、次に70歳代が8.1%である。年齢が下がるごとに割合が高い。



8 障害のある人への差別について

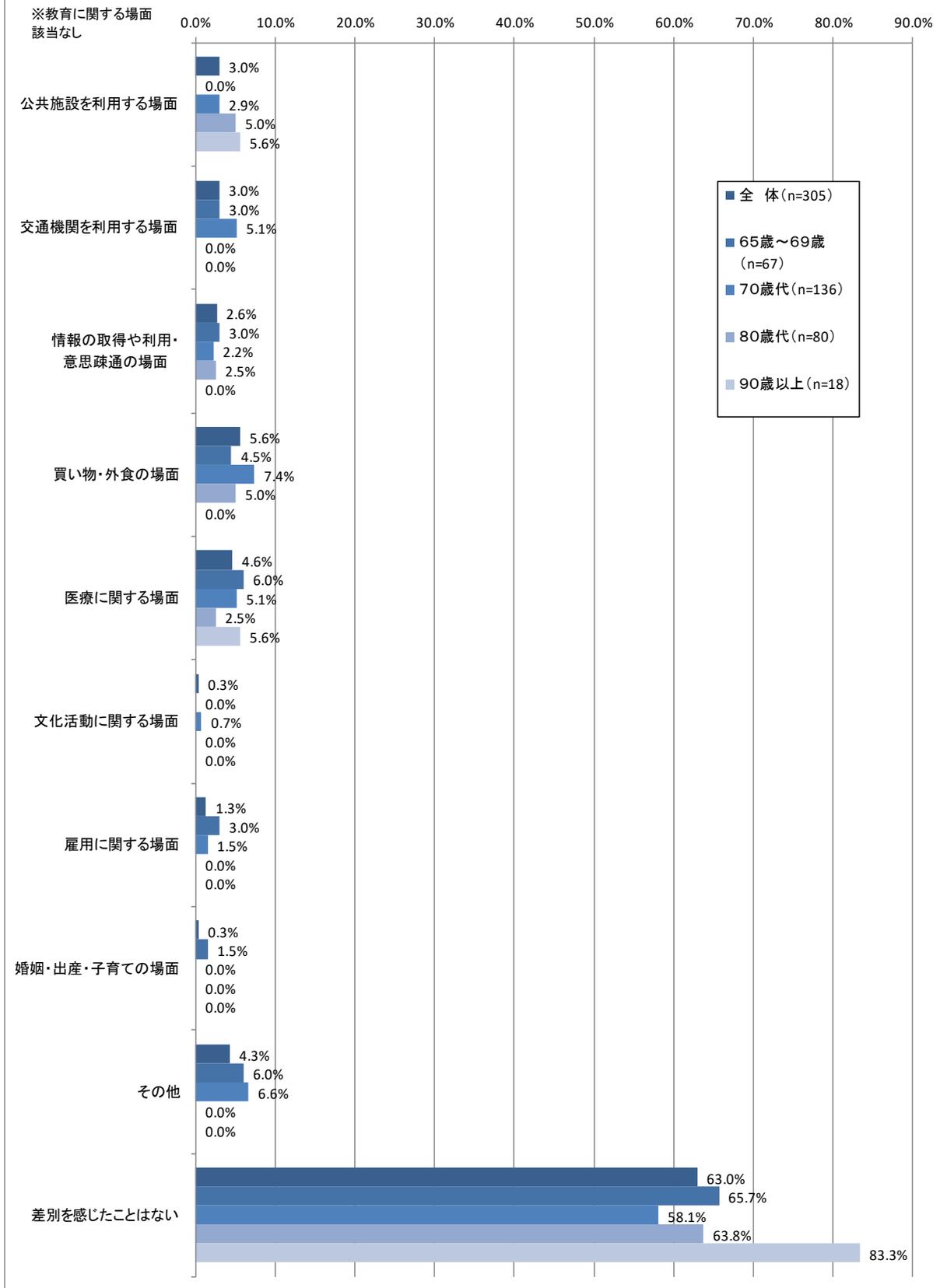
(1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（問27）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

「差別を感じたことはない」は、63.0%、「買い物・外食の場面」は、5.6%、「医療に関する場面」は、4.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「差別を感じたことはない」は、90歳以上が83.3%、次に65歳～69歳が65.7%である。「買い物・外食の場面」は、70歳代が7.4%、次に80歳代が5.0%である。「医療に関する場面」は、65歳～69歳が6.0%、次に90歳以上が5.6%である。

図表Ⅳ-E-27 障がい差別と感じた場面(複数回答)一年齢別

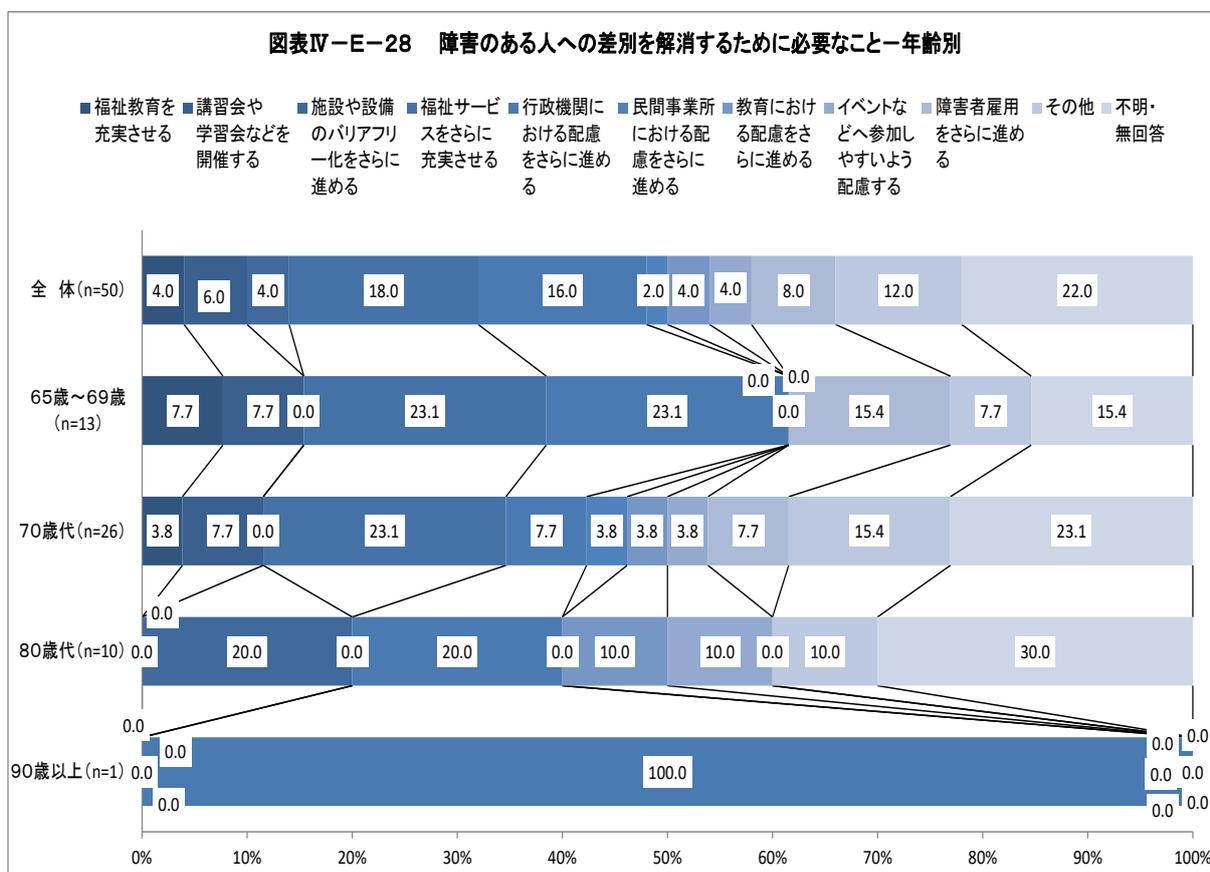


(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問28)

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「福祉サービスをさらに充実させる」は、18.0%、「行政機関における配慮をさらに進める」は、16.0%、「障害者雇用をさらに進める」は、8.0%、「講習会や学習会などを開催する」は、6.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「福祉サービスをさらに充実させる」は、65歳～69歳と70歳代がともに23.1%である。「行政機関における配慮をさらに進める」は、90歳以上が100.0%、次に65歳～69歳が23.1%である。「障害者雇用をさらに進める」は、65歳～69歳が15.4%、次に70歳代が7.7%である。「講習会や学習会などを開催する」は、65歳～69歳と70歳代がともに7.7%である。



9 社会生活について

(1) 社会生活を営む上で必要と考えること（問29）

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「経済的な支援」は、30.5%、「障害福祉サービスの充実」は、15.1%、「社会的な理解の促進」は、14.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「経済的な支援」は、65歳～69歳が49.3%、次に70歳代が28.7%である。「障害福祉サービスの充実」は、90歳以上が22.2%、次に80歳代が16.3%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「社会的な理解の促進」は、80歳代が16.3%、次に70歳代が16.2%である。

